

令和4年8月23日

福津市議会

議長 江上 隆行 様

建設環境委員会

委員長 横山 良雄

建設環境委員会報告書

令和4年第4回福津市議会定例会において、本委員会に付託を受けておりました所管事務調査について、その調査結果を会議規則第110条の規定により、下記のとおり報告いたします。

記

1. 調査事項

(1) 久末ダムの現状と活用について

2. 期日

令和4年8月2日（火）

3. 調査にあたって

久末ダムは、水道施設としての役割を終え、令和2年度末に宗像地区事務組合から本市に返還された。現在は、大規模公園指定管理区域にダム湖面の維持管理等を含めて指定管理者による管理運営を行っている。以下の3点について調査した。

(1) 維持管理にかかる現状と方針

(2) ダム改修工事について

(3) 将来の活用方法について

4. 調査結果

(1) 維持管理にかかる現状と方針

令和4年度からは、大規模公園の指定管理者がダム区域及び外周市道について、日常点検や安全点検、草刈り、木の剪定、危険物の除去など行い、事故の未然防止に努めている。維持管理の頻度は、直営管理をしていた令和3年度に比べてはるかに上回っており、利用者ニーズへの対応や緊急時の対応等に関しても迅速な対応が可能になっている。救命救急については、

救命胴衣やロープなどのセットを管理事務所で常備している。

貯水量は、令和3年度の最低値は5月に91.3%を記録している。取水を停止した現在は雨水の流入のみであるが、貯水量は比較的安定している。ただし、今年のように雨が降らない年は、若干水位が下がっている状況にあるため注視していきたいと考えている。

今後の方針としては、農業用ため池等に準じたハザードマップの作成を計画している。また、ダムを含めた公園の維持管理項目や巡回点検等についても検討している。

(2) ダムの改修工事について

令和2年度末に宗像地区事務組合より本市に返還されるにあたり、令和元年度に久末ダム施設保全工事調査設計業務(2,084万円)にて、施設の脆弱化した箇所の特定制及び補修工法を選定した。調査の結果、ダム施設のコンクリート構造物は概ね健全であることを確認した。施設の耐震設計では、三面水路の一部区間において応力不足があることが判明したため、鋼製支保工を用いて補強することとし、令和2年度に保全工事(4,199万円)で、余水路、放流水路、取水塔及び管理橋など6ヶ所を改修した。

現在、巡回時に目視にて異常がないか確認しているが、今後、専門的見地による定期点検の検討、湖底堆積物の状態の把握及び対処方法の検討等の課題がある。

(3) 将来の活用方法について

現在、指定管理者による様々な取り組みを進めている。

ウォーキング教室の開催計画や、周辺の学校や郷づくり推進協議会などと交流を図り、地域全体のPRに繋がる共働での事業の展開。ダム湖面に桜がうつる風景など公園の美しい風景をより多くの市民に認知してもらうためのSNSを活用した情報発信。イベントなどと連動して移動販売事業者による出店を行い、収益をダム周辺の活性化に活用して賑わいを創出するなどの取り組みをしている。

ダム湖面に関しては、大濠公園管理者にヒアリングを行って研究をしているところであるが、湖面活用導入可能性調査の中で市場調査・類似施設の視察などを実施し、市とともに今後の事業展開を検討していく。

今後、市と指定管理者の共働により久末ダムを生かした事業展開を進めることで、市民の交流の場としての活性化を図っていく方針である。

5. 委員会としての意見

(1) 維持管理にかかる現状と方針

令和5年度に計画されるハザードマップについて、具体的な進捗状況な

ど計画通りに策定することを期待する。

水源の用途について、第2次福津市都市計画マスタープランでは「多目的な水源として維持保全に努める」と変更する予定との報告があったが、どのように多目的に利用するか明確ではない。湖面活用や補完的に農業用水などに利用するということであるが、今後の活用については、様々な意見を踏まえ検討していく必要があると考える。特に重要視されるのは、湖面の活用を早期に考えることである。

また、水源確保としての久末ダムの今後の活用については、専門家の意見も参考に再検討が必要と考える。

指定管理者による管理は、市の直営管理よりコストを抑えてサービスは向上しなければならない。今後、更なる質の高い維持管理と危機管理の徹底により、満足度向上と利用者増加につながる事を期待する。

(2) ダムの改修工事について

巡回中の目視点検も必要であるが、専門的見地での定期点検を実施するよう早急に検討すべきである。現状のままでの推移ならば、大きな荷物にすぎない。

補修工事の材料や工法については様々な考え方があるが、十分に納得のいく説明とともに最も安全な方法での工事を実施していただきたい。また、湖底堆積物の状態の把握及び対処方法の検討を急ぎ、湖面を活用した事業を早急に実施することを希望する。

(3) 将来の活用方法について

ウォーキングやジョギングのダム周回コースの距離表示が不明確である。以前から利用者が指摘しているが改善されておらず、早急に対応すべきである。

周辺地域との連携では、神興東地域郷づくり推進協議会だけでなく、利用者の多い神興地域郷づくり推進協議会と上西郷地域郷づくり推進協議会の2地域との連携も視野に入れるべきであると考えます。

令和4年度に実施する予定であったイベント等の多くが、コロナ禍により未実施となっている。ダム周辺の賑わいも含めて、利用する市民が満足できる施設運営をするために、市と指定管理者がさらに連携を深めた体制づくりを強化する必要がある。また、指定管理者が代わっても、継続的に様々な事業が行える体制づくりを構築することも重要であると考えます。